

# 北辰

TOKYO

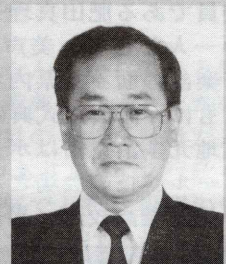


岐阜県立多治見北高等学校同窓会  
東京支部会報 第15号  
2001年9月29日

## 母校と同窓会の連携

多治見北高等学校同窓会・東京支部

会長 愛知紘治（1回生）



東京支部会員の皆様、如何お過ごしですか。一昨秋、新執行部にてスタートした東京支部も、お陰さまで順調に推移しております。活動方針の一つである母校及び本部同窓会との連携強化では、今年6月土肥校長先生から同窓会に対して「総合学習カリキュラム」への講師派遣依頼があり、今年7月12日、16日、それぞれ東京支部より、文化系－鈴木満氏（1回生）、理科系－私（1回生）の2名、母校にて在校生対象に講演、第1回目の「総合学習カリキュラム」は無事終了しました。それぞれ実社会での経験を中心に専門分野のテーマ、鈴木氏は「フェアネス・フリーダム、そして大学のこと」（本会報に掲載）、私は「新薬開発と製薬企業」のテーマで約1時間半講演しました。自主参加した在校生は熱心に聴講、私のゲノムの話、新薬開発における遺伝子解読のインパクト、ガンなど難病の治療の話など理解出来たか心配ではありましたが、後日、土肥校長先生から参加した在校生の感想文が届き、その内容から充分理解して頂いていることがわかり、安心すると同時に参加した在校生のレベルが高いことを知りました。中には将来、新薬の開発の仕事をやりたいと記した後輩がいて頼もしく感じた次第です。

また、今年の10月17日（水）には芥川賞を受賞した

堀江敏幸君（22回生）が母校で講演することが決まり、母校と同窓会との連携がいろいろな形で具体化しております。母校を中心に、本部同窓会、支部同窓会の密接な連携により、同窓会活動を盛り上げ、一層の活性化を図ることにより、先輩－後輩の絆、同期生同士の絆がより広く、より深くなり、大きな力となって母校の発展に寄与するものと考えます。

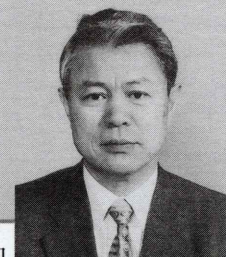
東京支部では今年度の活動目標に、支部活動の活性化、若い会員の参加意識の高揚を掲げております。その具体的な行動として、東京、神奈川、埼玉など地域ごとに身近な同窓生に声をかけ、小さな集い、地域交流会を開催することにしております。神奈川ではすでに始まっており、埼玉、東京でも支部役員を中心に検討されております。同窓生の皆さんには是非、声がかかったら積極的に参加して下さい。会員のネットワークの広がりはいろいろな意味で同窓生一人一人の人生を豊かにしてくれるものと思います。

最後に今年も恒例の東京支部総会、フォーラム、懇親会を、母校より土肥校長先生、恩師の先生方、若尾本部同窓会会長、尾関副会長、西寺市長他来賓を迎えて開催します。会員の皆様には同窓生に声をかけて、一人でも多く参加して頂きますようお願いしております。

## 世相と教育改革

岐阜県立多治見北高等学校

校長 土肥勇賢



東京支部同窓会会員の皆様方には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年は支部総会にも参加させていただき、一緒に母校の思い出話に楽しいひとときを過ごさせていただきました。支部総会の盛況や「北辰」発行にみられますように支部同窓会の充実発展に対しまして心よりお喜び申し上げます。

さて、その母校では、例年の如く、卒業生を送り新入生を迎え日々順調な活動の中に、生徒は夢を持って将来を見つめ学んでいます。校訓「自主・自律・自学」も伝統を受け継ぎながら新たな校風を築いています。

（3ページに続く）

# 多治見北高校のこの1年

多治見北高教諭（同窓会担当）

西田智子（22回生）

昨年度は、岐阜県がインターハイ（全国高等学校総合体育大会）の会場となり、県内の高校生が一人一役運動と銘打って、全国からのお客さんを気持ちよく迎えようと活躍しました。

岐阜メモリアルセンター長良川競技場で8月1日（火）に開かれた総合開会式では本校の放送委員である肥田真理子さんが総合司会者のうちの一人として、美声を全国の高校生に聞かせ、音楽部の面々も県内各校の合唱部の生徒たちとともに、開会式式典に花をそえました。

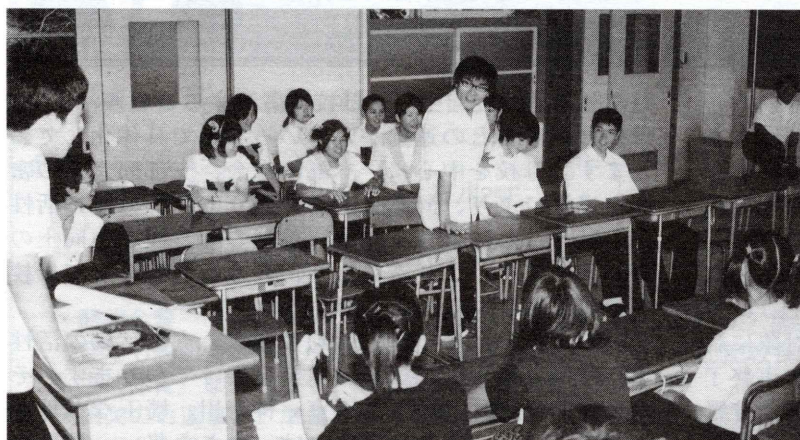
地元多治見市はボクシング競技と男子バレーボール競技の会場となり、ボクシング競技を多治見工業高校が、男子バレーボール競技を多治見北高



校が、それぞれ中心となって支援するということになりました。

多治見市総合体育館をメイン会場として本校生徒も多数役員として、各高校の選手たちのプレーを支えました。平成11年に竣工になりました2階建ての体育館も男子バレーボールの練習および予選会場となり、全国の選手の活躍の舞台となりました。また、ボクシング部のライトフライ級の林義勝君、バンタム級の塚本清史君、フェザー級の久保直嗣君が岐阜県の代表としてリングに上がり、林君と久保君が第5位に入りました。

平成11年度より、それまで5月に行われていた修学旅行が、6月の末に時期を変え、それにともない行き先も九州から北海道に変わ



## 同窓生便り

### 近況報告

堀江敏幸（22回生）

名前だけなら誰でも知っている文学賞を頂いてから半年ほど、周囲に何か大きな変化は生じたか、という方から訊ねられました。残念ながら、私の生活はあいかわらず大学での教師業と作家活動とのきわめて単調な往還のなかにとどまっています、なにひとつ華々しいところはありません。すべてがこれまでどおり、私の能力の及ぶ範囲内で、ごく自然に、無理なく動いています。

しかし、ひとつだけめざましい変化がありました。同級生、同窓生の数が一挙に増えたことです！二十年以上のあいだ一度も会っていなかった旧友たちが連絡をとりあって、郷里で祝福の会まで開いてくれました。その折、私自身に対する祝いの言葉よりも、久しぶりにみんなと会うきっかけを作ってくれてありがとうと感謝されたことがずっと心に染みて、忘れがたい思い出になっています。

ともあれ今後とも努力して参りますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

### 17回生第4回同窓会の報告

川人康代（17回生）

去る8月12日（日）多治見市文化センターで17回生第4回同窓会が行われました。5年に一度やってきて、前回出席できなかった人の「5年も待てない」という声を受けて、今年となりました。

数学の伊藤昭先生、古典の遠藤先生、物理の大石先生、英語の田村先生、体育の松田先生、そして同期生93名が集いました。先生方はちっとも変わっていないのに、さすがに、高校を卒業して25年、わからない人もいたりして、ドギマギ。また新しい出会いもおもしろいものですね。

さて、11月の東京支部の同窓会に、多治見より松田先生出席とのこと。「俺が行くから来いよ」と東京在住の人たちにはっぱをかけて下さいました。再会を楽しみに!!

（いい話）鈴木一雄さんの推理小説。光文社文庫。本格推理④鮎川哲也編他で読めます。「スーホーの白い馬」CD。春田康宣さんと加藤久和さんの小5のお嬢さんがヴォーカルと声を担当。是非聞いてみて下さい。

りました。白老のポロトコタンを訪ねてアイヌ民族の文化を学び、ニセコでカヌーなどの体験をし、小樽で班別研修をするといった生徒の自主的な活動を中心とした修学旅行になりました。

9月の北辰祭ではクラスの出し物としてダンス系の出し物が多く見られ、これもまた時代の流れに敏感な高校生らしいものとなりました。2日目の討論会においては、ここ数年、パネルディスカッションを試みたり講演会を組み入れたりしてきましたが、12年度は、全校から募集した中から19テーマを取り上げ、それぞれが関心のあるテーマについて話し合うという形式に

(1ページから続く)

現在、巷の関心事は「17歳」から時として起きる殺傷事件へと移っているようです。物騒な世相と受け止めなければなりません。これらの問題は教育問題と絡んでその背景に何があるか考えてみる必要があります。それと同時に現在、国会での教育に関する重要法案、県での教育改革に関する施策と無縁ではありません。平成15年度から新しい学習指導要領へ移行する訳ですが、学校には、一挙に多岐に渡って諸改革が押し寄せてきています。一方では、国民一人一人が総評論家の如く教育論がなされています。皆さんも他人ごとでなく考えてみてください。

人間は環境の産物とするなら、まさに今の子ども達は、経済・社会の利便性と飽食がもたらした産物とも言えます。総じて、今の子ども達を言い表すならば、「当然身に付けなければならない規範意識等が身に付いていない。自分一人で生きれるんだという錯覚と自己中心的な考え方から抜けきれない。なかなか人間関係がうまく作れない。自分の思うようになることが当たり前で人から言われたりすることがなかなか受け入れられない。人の考えや痛みを理解しようとしな

戻りました。文実委員会を中心に準備が進められ当日を迎え、地元では朝日新聞にも取り上げられました。

10月18日(水)には進路講演会に「ちびまる子ちゃん」の「杉山君」の声優の水原リンさん(17回生)を迎え、「背水の陣で声優になる」という演題で、全校生徒に生きる勇気を与えるようなお話をさせていただきました。

平成14年度からは学校5日制がいよいよ始まります。本校においても今年度から北辰祭が平日開催となるなど、学校も大きく変わろうとしています。不変の北高魂が発揮されていくことを望みたいものです。

堪えることや苦勞することができない。すぐあきらめたり他に依存してしまう。」といった状況が散見されます。

勿論、それでいいはずはありません。教えることが必要です。そのために、いろんな改革が打ち出され、「ゆとりの中に生きる力を」を全面にしながら、例えば、インターンシップや農業体験、ボランティアなどに全員が取り組むように進められている筈です。ただ、学校の役割は全人教育であり学力を付ける場であることには変りがないにしても、学校にその改革に応ずる受け皿があるかどうかです。そうでなくても、現実にはいろんな問題を抱えています。安易に学校と言わず、もう少しそれぞれの場での対応を考える必要があります。親としての役割、家庭の在り方、地域の教育環境の整備等を強力に打ち出していかないと解決しないように思います。

本校においては、軽はずみな言動は時としてあるものの落ち着いた生活を送っています。ただ次世代を担う若者をどう育てるか、国家百年の大系が定かでない今日、もっと多面的に考えていくことが望まれます。

## 同窓生便り

### 東京で12回生の同期会

原田英明(12回生)

集まった12回生の面々

6月23日(土)渋谷のビアホールで12回生の東京での集まりを行いました。10年程前に集まって以来の会です。今年度は東京支部の総会・懇親会の幹事回生だということもあり、またやろうということで名簿をたよりに呼び掛けました。当日は13名の参加があり話に花を咲かせました。二次会、三次会、四次会(?)までやったメンバーもいたとか。今後は規模は小さくてもいいからちょくちょく集まるといいねと大方の意見が一致しました。今回参加できなかった方もまたいつか参加して下さい。



# 文学賞をめぐる

鈴木郁雄 先生

(1958.4~1967.3 国語担当)

今年一月、第百二十四回芥川賞を多治見北高第二十二回生、堀江敏幸氏が『熊の敷石』によって受賞された。その賞讃と歓喜とが多治見北高の関係者は勿論のこと、地域一帯に拡散浸透していった。多治見と言えば陶器の街。文学不毛の土地の如く看做されて来たが、この度の堀江氏の芥川賞受賞は、その汚名を雪ぐ快挙であった。

題名の『熊の敷石』とは異様な感じを与えるが、作者が作品の中で記している事によって明らかにされている。それによれば寓話で「要らぬお節介」という意味で、この小説のテーマを暗示している。堀江氏のこの作品について、選衡に際し「エッセイ風で小説としての魅力に乏しい。」「エッセイから小説になりきっていない。」等の批判はあったが、「人と人との関わりの内にある微妙な温もりを知的な言葉で刻んだ作品」「物語の劇的な素材を含み乍らそれを底へ極力沈め押えようとしたもの」等の讃辞が圧倒的であった。

この小説の中心は、かつて留学生として滞在した事のある「わたし」が、そのノルマンディの閑村を再訪し友人ヤンと会う。ヤンはユダヤ人でナチスドイツの迫害・虐殺の被害を蒙った暗い過去を引き摺って居る。しかし彼との日常生活は淡々と流れていく。その不即不離の交遊ぶりのディテールが好ましく味わいがある。ヤンの祖母の親族十六人中、生き残りはたった四人という冷酷悲惨も、事実の記述のみで大袈裟な感

情移入は見られない。その辺に「熊」が「敷石」を投げつけるような、慮外な行動を取らない、人間関係の美しさを描き出しているように思う。

芥川賞は純文学の分野での新進作家の登竜門と称せられ、直木賞はやや通俗乍ら一般に実績を積んだ作家に与えられているという。数ある文学賞のうち、日本文学界の最高の榮譽として毎年注目されている。そこで多くの作家はこの受賞に執念を燃やしている。昭和十年の第一回芥川賞選衡の際、太宰治が選者の一人川端康成に推薦方を熱望したが、石川達三『蒼氓』が受賞する結果となり、ひどく自尊心を傷つけられて、川端康成への激しい抗議文を寄せた事は有名なエピソードである。また、吉村昭が妻の津村節子に芥川賞受賞を先んじられ、焦燥と苦悶とに明け暮れた時期があった事を、その随筆に正直に書き記している。その後、吉村昭は発奮して太宰治賞・菊池寛賞・吉川英治賞・読売文学賞・毎日芸術賞・大仏次郎賞など多くの文学賞を獲得している。

先に述べた芥川賞・直木賞の性格上、芥川賞受賞作家の中には所謂一発屋が多いようである。受賞作で一躍読者の眼を惹くが、その後、余り生彩を放たずに終わった作家も少なくない。それに比べ直木賞受賞作家は、次々とベストセラーを世に送り出している人が多い。我が堀江敏幸氏にあっては、今後益々活躍される事を期待して筆を擱く。

## 同窓生便り

### 頼もしい後輩たち

—「総合的な学習の時間」講演会の講師を務めて—

鈴木満 (1回生)

8月21日から学生とともにスカンジナビア3国(デンマーク・ノルウェー・スウェーデン)を回って31日に帰国したところ、多くの郵便物に混じって岩田編集長からの執筆依頼状が届いていました。そこで、講師を務めた感想を(多くの示唆を受けたスカンジナビア3国の実情に触れながら)述べさせていただきます。

ご承知のとおり、いわゆる「ゆとり教育」の一環として高校の授業に「総合的な学習の時間」が加えられました。北高ではこの機会を利用して卒業生を招いての講演会を開催することになり、このたび土肥校長先生のご指名により、東京同窓会から愛知会長と私とが平成13年度の講師を務めさせていただきました。

私は7月12日午後「フェアネス・フリーダム、そして大学のこと」と題して1時間30分ほど話をさせていただきました。この中で私は、北高の校訓である「自主・自律・自学」は、民主主義に繋がる考え方であり、現在の日本社会に最も必要とされるモットーである旨を話しました。今回、スカンジナビア3国を旅

して見て、これらの国々が高度な「民」民主主義社会・福祉社会を実現させる原動力となったのは、これら国民の「自主・自律(自立)」の精神であったことを知り、母校で話したことは間違いではなかったとの確信を持ちました。とりわけ、これらの国々で聞いた「若者は18歳になると大人として扱われ、この歳で選挙権・被選挙権を取得し、これを機に親元から離れて精神的にも経済的にも自立する」、「介護では、老人の自主性を尊重し、寝たきりにしないでできるだけ自立できるように配慮して、一人ひとりのカリキュラムが準備されている」などの話に、「パラサイトシングル」の増加や昨年亡くなった父が利用した施設の画一的介護を思い浮かべて、日本の実情との大きな格差を感じました。これは「民」民主主義の成熟度の違いによるのでしょうか。

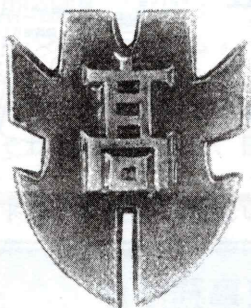
さて、講演が終わって1週間も経たないうちに、土肥校長先生から礼状とともに聴講した生徒さんの感想文が送られてきました。「校訓である『自主・自律・自

# 校章…？

加藤昭二 先生

(1958.4～1966.3 生物・地学担当)

## 校章の由来



校章は学校の理想を具現したもの。

北の文字の上むきは、向上と進歩を。高の銀は知性と純情潔白を。北の銅は、若き熱情と情調を。形の小さきは、慎ましく、おごりをいましめ、小さき中に、大いなる夢をたくす。

多治見北高等学校の学校要覧（昭和39年度）、生徒手帳（昭和40年度）から書き写しました。

多治見北高も創立43年になり、無からの発足にかかわった一人として感慨無量です。

開校時の状況については、多北高「北辰」創刊号の鈴木郁雄先生の恩師回想に譲ることにします。

1958（昭和33年）4月1日付で、新設校の職員になった14名は、8日の開校式・入学式に向けて深夜まで会

議・準備作業がありました。まず、校名が「岐阜県立多治見北高等学校」と決まり、帽章のデザインを美術の西寺鉄舟先生が担当されました。デザインを説明される会議があり、帽章も決まりました。

新しい同窓生のなかには、校章…？ の人もおられると思います。男子生徒は創立当初には帽章をつけた学生帽を着用していました。校章の由来はこの帽章についてのものです。

女子生徒は、男子生徒の帽章に代わるバッジを付けることになっていました。このバッジは小形のもので、北の字が高く縁どられ、北の字の地色は黒、高の字は金色です。

やがて、男子生徒は学生帽を着用しなくなりました。目にするのは、女子生徒用であったバッジだけになりました。

入学式・卒業式などの式場の壇上に飾られる校旗は、スクールカラーの緑の中に徽章があります。この徽章のデザイン・色などは帽章のものです。

あらためて、校章…？ にもどります。

2000年11月の支部総会に出席させていただきありがとうございました。心から感謝しています。

皆さんがたには、ご自愛のほどを・・・

## 同窓生便り

学』についてあまり考えたことはなかったけど、社会に出てとても役立つことが分かった」「一人ひとりの力が地域を動かし国を動かす、自主・自律という力は大切であることが分かった」「校訓のように自主性を持った生き方がしたい」「自分で大きな夢を持ち、それを実現できるように学んでいきたい」「一歩一歩進めば最後には必ず頂上に着けるとい言葉がとても印象に残った」などの感想が寄せられました。物事をよく理解する後輩たちが頼もしく思えました。なお、「先生は天職についていると思った」とのコメントには、（お世辞と分かっている）私にとっては最高の「ほめ言葉」であり、感謝しております。



7月の第2回BA@YOKOHAMAの様子

## BA@YOKOHAMAのご案内

発起人有志

この小さな同窓会は、年1回の東京支部同窓会とは別に、回生を超えた気楽な集まりを、地域的に試行してみようということで、今年の3月に、神奈川在住の同窓会員数名が集まって話し合い、発足しました。会合の場所は、当分の間、その時に使われた横浜桜木町みなとみらい、クインズタワーA館6FにあるJクラ

## 北高卒業生の“集い処”紹介

斎藤 明 (3回生)

ご存知の方もいらっしゃるかも知れませんが、「のぼり釜」という名前の居酒屋が文京区小石川にあります。地下鉄三田線春日駅の北口を出て地上に上がり、3~4分ほど歩いた辺り、昔の風情がかすかに残り、なんとなく懐かしさを感じるような商店街の中ほどにそのお店はあります。

街並みに合わせるかのように看板以外は渋いタイルの外装で、しっとり溶け込んでいます。店内はテーブル席にカウンター、小あがりの合わせて30人くらいが入れる広さです。外装と同じく中も落ち着いて、ゆっくり飲んだり、気楽な会話を交わすにはちょうど手頃な雰囲気のお店です。

少年のような笑顔で客を迎えてくれる爽やかなご主人と、チャームングで氣立てのいい奥様が切り盛りをしています。全国から集めた旨い地酒と手作りのおいしいおつまみ料理が自慢です。もちろん三千盛もあります。お値段もリーズナブルなので安心して腰を落ち着けられます。

さて、気になる「のぼり釜」という名前の由来ですが、



ご主人夫妻とお店

すでに賢明なる諸兄姉のご推察のとおり、このお店が多治見とは切っても切れない深い縁で結ばれていることの証なのです。実はこのお店の奥様は多治見の金正陶器さんのお嬢様なのです。お兄さんは多治見北高8回生の竹内幸太郎さんで、金正陶器さんの跡を継いでいます。その妹さんが東京の陶器店に嫁ぎ、やがてご主人と一緒に居酒屋を開き、二人で頑張っているお店という訳です。

そんな訳でわれわれ東濃出身者にとってこのお店は、心を許してゆっくり飲める、とてもいいお店です。ぜひ、友人を集めて出かけてみて下さい。ところで、のぼり釜の「釜」はなぜ「窯」という字を使わないのでしょうか。

### 居酒屋 のぼり釜

ご主人 鳥山 正 奥様 順子  
〒112-0002  
東京都文京区小石川1-14-5  
TEL. 03-3813-0333 03-3818-5227  
営業時間  
P.M.5:00~P.M.12:00  
定休日 毎週土曜、日曜



## 岐阜県東京事務所が メールマガジン創刊

岐阜県東京事務所は、この7月メールマガジン「GIFU・E-NEWS」を創刊しました。県の行政ニュースや観光情報などを月1回のペースで配信しようというものです。東京事務所では送信希望者を募っています。希望者は下記メールアドレスまで、ふるってお申し込み頂きたいとのことです。

c21101@govt.pref.gifu.jp

岐阜県東京事務所 TEL.03-5212-9020 FAX.03-5210-6871

## 同窓生便り

プ。横浜の美しい夜景が見える、落ち着いた雰囲気のパブレストランです。時間は、PM6:30~8:40。会費は4000円程度。隔月の開催で、5月には、1回生から8回生まで、12名の参加があり、その半数が女性でした。7月は何かと用向きの多い月ですが、それでも女性3名、男性5名が、都合のよい時刻に集い、大いに食べ、飲み、語り合いました。この半数は、5月の参加者でもありました。

## BA@YOKOHAMAに参加して

新井裕子 (7回生)

7月の集まりに参加しました。面識のある方は同期の岩田ご夫妻だけと聞いていましたので、どんな方々とお会いできるかしらと、少し胸をドキドキさせながら、会場に向いました。

今回は10人に満たない集まりで、途中で帰られる方、遅れて来られる方など、でしたが、盛りだくさんの料理と飲み物を前に、乾杯とともに雰囲気は一気に盛り上がりましてゆきました。少し声を出せば全員と会話できる距離は打ち解けやすく、それぞれが知らずに歩いて

次にあげるのは、7月の参加者の一人、新井さんからの感想です。

さて、今度はきっと、貴女のところへ会からの案内が届けられることでしょう。そして、その次は、きっと貴方のところでしょう。女性よ、来れ。若い人はさらに来れ。先輩も後輩も、東京からも近県からもぜひ来れ。このひとときを共に楽しく過ごしましょう。(北高のHPでもこの会の案内が見られます)

きた人生の中に、思いがけない共通点を見出し、偶然に感動し、その時を過ごした自分にタイムスリップしながら話は弾んでゆきました。

2時間はあっという間に過ぎ、会場を出た後に、ほろ酔い加減の中年の男性と女性で夜の遊歩道を散歩しました。岩田さんが前回歩き、海に面した夜景の美しさに感動されて勧めてくださったコースです。ここは、年頃の私の娘からも聞いていた若者たちの素敵なデートコースとか。夜の外出の苦手な私には、縁のない場所と思っていましたが、楽しく素敵な夜を過ごすことができました。そして、自分の住居の近くに住んでいらっしゃる同窓の方というだけで、とても親しみを感じてしまうという不思議さ。これからも折にふれ、多くの方と交友を深めてゆきたいと思っています。

# 『最近の多治見市政は』

多治見市長

西寺雅也

多治見市長に就任してから、すでに6年がたちました。就任した年から市の広報に書いてきた「随想」が60号をこえました。最初の頃の「随想」の文章は「していきたい」という言葉で結ばれていました。自らの考えがなかなか施策化されないことに焦りを憶えながら「願い」としてメッセージを出していたことを思い出します。最近ようやく手をつけたことが形として現れるようになってきました。

現在の地方自治体にとって、役所の体質を変え、現代の課題に対応できるものにしていくことが緊急で重要な課題になっています。国の財政が逼迫しているように多治見市も破綻寸前の状況から脱出するため、厳

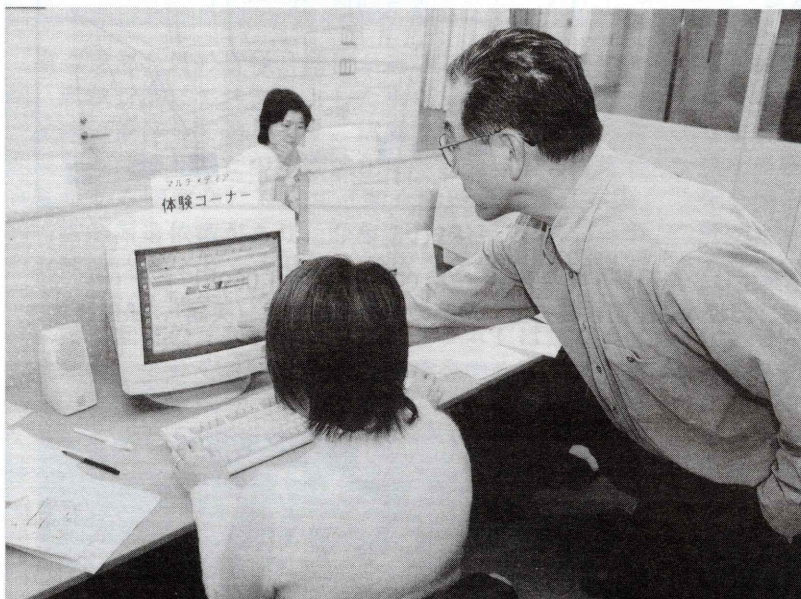
用できるシステムづくりなどにチャレンジしています。市民の情報リテラシーのために「情報センター」も昨年オープンしました。多治見市のホームページも最近充実させ、積極的な情報公開、情報提供のツールとして活用できるようになりました。

(<http://www.city.tajimi.gifu.jp>)

また、厳しい状況の地域産業をなんとかしようと陶磁器産業を核としたビクターズ産業興しやまちなかの再生の取り組みをしています。多治見のまちなかはだんだんきれいなまちへと変わりつつあります。(行政もビクターズ産業の先頭に立つ心意気でと行政視察の受け入れ、大学生のインターンシップの受け入れを進めています。大学の関係学部にはDMを送っています)

また、今年2月ISO14001の認証を受け、廃棄物問題への先進的な取り組みや緑化、ビオトープづくりを進め、あらゆる市の事務事業を環境面からチェックするシステムをつくり、環境共生都市づくりを進めています。まもなく完成する多治見中学校の新校舎はエコスクールを目指し、豊富な植栽、屋上緑化や太陽光発電などを取り入れました。(学校建築では見かけないすばらしいデザインの学校です)

北高同窓会東京支部のみなさんには多治見市の「特派員」になっていただいている方も多く、また施策作りにも協力していただいている方もみえます。是非、今後とも多治見市のためにご支援、ご協力をお願いします。



▲「情報センター」の体験コーナー

▼多治見中学校新校舎

しい財政運営を強いられています。そのため多治見市では行財政改革の遂行が最重要課題となり、成果を生み出しつつあります。

また、市民参加と情報公開はこの地方では有名なほど進み、職員たちにも当たり前なことと受け止められるようになりました。地方分権の時代が訪れ、政策形成能力や事務処理能力の向上は当然ですが、市民と行政の協働こそが不可欠になってきました。そのために市政への市民参加、情報公開はこれからも必須のことになってきています。多治見市では市民向けに予算説明書、決算説明書まで作って、市民との情報の共有化に取り組んでいます。

一方、多治見市は国のモデル事業の利用やCATV会社の誘致などで情報化施策を進め、CATV網を市域ほぼ全域で高速情報通信が可能になったほか、公共サービスにICカードの多角的に利



# 第12回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々御清祥の事とお慶び申し上げます。いつも何かと支部運営にお力添えいただき有り難うございます。

さて、本年も総会・懇親会を下記の要領で開催いたします。時節柄御多用とは存じますが同窓の方々をお誘いあわせの上、ご出席下さい。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会  
(2、12、22、32回生)

## 記

日時：2001年11月10日（土）pm3：00～7：45

受付 pm2：30～

総会 pm3：00～3：30

議長選出 活動報告 会計報告 その他

フォーラム pm3：30～4：50

1.「東京の飲み水」 野津博道（6回生）

2.「郷土の生んだ国学者～佐藤一斎～」

前原金一（2回生）

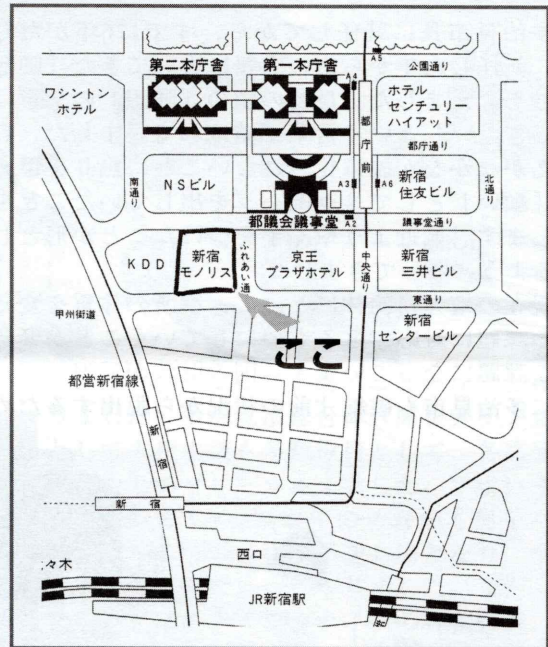
懇親会 pm5：00～7：45

会場：モノリス29

新宿区西新宿2-3-1 モノリスビル29F

(03-5381-9229)

※会場までの道筋は、案内図をご覧ください。



- ・懇親会費 一般7,000円 学生4,000円（新卒業生は、無料）・年会費 一般3,000円 学生1,000円
- ・今年も同窓会本部より若尾会長、尾関副会長、母校から土肥校長先生、恩師の伊藤郁雄先生（英語）、松田嘉久先生（体育）などの方々をお招きする予定です。
- ・出欠のお返事は、準備の都合もありますので10月20日までにお願い致します。



昨年の総会、懇親会の様子

## 編集後記

会報15号を発行するにあたり、母校はじめ同窓生各位、今回芥川賞を受賞された堀江敏幸さん等、様々な立場から今日的課題を示唆するご寄稿を頂き、ここに厚く御礼申し上げます。国際、国内の、社会の激動を感ずる20世紀初頭において、このような同窓会の営みをはじめとする、人々の連携と文化の創造は、今日の積極的な平和社会の礎となることでしょう。地域や同窓会に関する話題、記事に関するご意見、情報等ありましたら、下記にご連絡を。

## 編集委員（連絡先）

〒338-0001 埼玉県浦和市上落合2-11-7 2107 愛知絃治（1回生）TEL/FAX 048-855-7840

〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内67 岩田 実（7回生）TEL/FAX 0467-25-5329

〒131-0043 東京都墨田区立花6-8-1-304 原田英明（12回生）TEL 03-3616-5398 md\_harada@hotmail.com

<ホームページアドレス>http://members.aol.com/takitatky/ <メールアドレス>takitatky@aol.com